Journal of Culture and Information Science, 9（1）, 12-24,（October 2013）

資料紹介

同志社大学文化情報学部蔵無名歌集

―翻字と解題（1）―

福田　智子・児玉　駿介・加藤　みどり

同志社大学文化情報学部蔵無名歌集（仮称『いろは和歌集』）は、和歌を句頭の文字によって、いろは順に分類・配列した歌集である。本稿では、歌頭が「い」「は」「に」「ほ」「と」の歌（「ろ」「へ」の項目はない）、計 141 首について、『新編国歌大観』を対象に他出歌集を検した。その結果、勅撰集歌だけではなく、六家集（秋篠月清集・長秋詠藻・山家集・拾玉集・拾遺愚草・壬二集）の他、『堀河百首』や『新宮撰歌合』、『秘蔵抄』（永享十年までに成か。元禄十五年刊『和歌古語深秘抄』所収）、そして、『源氏物語』や『平家物語』（覚一本）など、いずれも他の歌集（作品）に載っていない歌が本書に採られていることがわかった。中でも『拾玉集』は、その用例数が最も多い。また、『秘蔵抄』の歌 1 首は、本書の成立を考える上で、重要な指標となる可能性があろう。

1. はじめに

本書は、臨川書店『和洋古書善本特選目録秋期特集号』（通巻第二十号）に掲載され、平成 23 年 7 月、同志社大学文化情報学部文献室に購入された写本である。いま、この目録から解題を引用してみよう。

一九　いろは和歌集
　室町末期写〔孤本〕　一帙一帖
　縦二四・四糎、横一六・一糎。列帖装（綴葉装）一冊。本文共紙表紙。外題、内題はない。本文料紙は鳥の子。全九七丁。墨付は一丁裏から九七丁表までで、一面一〇行一首二行書き。若干の虫損は全て補修される。また、一部にカビ、汚れも見えるが、丁寧に保存された様子が窺える。歌本文に、別筆の異本注記、訂正も存する。
　本書は、歌頭により、いろは順に並べられた選歌集である。「いつはりとおもひなからも待よひのふくるはつらき山のはの月」以下、全九五九首。『古今集』等著名な歌集の和歌には、集付けと作者名が付されることもある。中に、『草根集』と『雪玉集』を出典とする和歌がある点から、本書の成立は室町末期と推定される。さらに、本書には『新編国歌大観』に見えない和歌が 50 首ほどあり、また同じ和歌であっても現在通行の本文とは大きく異なる場合も多い。加えて、『平家物語』や『太平記』が出典となる点も、このような選歌集には大変珍しい。
　なお、同じくいろは順の選歌集である島原松平文庫蔵『伊路葉集拾遺和歌』とは、所収の和歌が大きく異なる。則ち、本書は孤本であり、成立事情等謎も多いことから、十分な研究がなされるべき伝書といえよう。

「いろは和歌集」という名称で目録に記載されているこの本は、現在では、同志社大学・同志社女子大学蔵書検索システム DOORS にも同名で登録されている（請求番号 911.108||I9564）が、目録にも明記されているとおり、実は本書は、内題･外題を有しない。また、奥書もない。従って、書写の由来はおろか、書名までもが不明という他はないのである。本稿において本書を「無名歌集」と称する所以である。
　だが、命名された形跡や奥書がないということそのものが、本書の性格を象徴的に示しているとも言えるだろう。本書は、和歌を句頭の文字によっ

て、いろは順に分類・配列した歌集である。このような歌集の編纂目的としてまず思い浮かぶのは、和歌や連歌を作るための手引書としての面であろう。そうであれば、書名や奥書などを、ことさら必要としない備忘として、位置付けることもできよう。

とはいえ、先の目録において室町末期写とされる本書には、実に様々な歌集（作品）の歌が収められている。室町末期から近世にかけての和歌受容のあり方の一端を本書から垣間見ることも、あながち不可能ではないだろう。とともに、そこから派生するであろう様々な問題について、考察していきたい。

なお、先の目録では、和歌をいろは順に並べた集として、『伊路葉集拾遺和歌』を挙げ、本書は内容が異なることを指摘しているが、同類の撰歌集である細川幽斎編『和歌座右』（『新古今集古注集成』近世旧注編 1（新古今集古注集成の会、笠間書院、1998 年 2 月所収他、諸本が存する）とも別の本である。

そこでまず本稿では、「い」30 首、「は」30 首、「に」20 首、「ほ」30 首、「と」31 首（内一首小字書き入れ）の計 141 首（「ろ」「へ」の項目はない）の翻字と、他の歌集における収載状況の調査結果を報告し、若干の解題を試みる。

2. 翻　字

【凡例】

①和歌本文の歌頭には、(1:い 1) というように、歌集全体の通し番号と、歌頭の文字ごとの通し番号を付す。

②本文の表記は、できるかぎり原態を生かして、通行の字体に翻字するよう努めた。歴史的仮名遣いに統一したり、私に濁点を付したりすることは避けた。

③本書にある集付や作者名は、和歌本文の後に、（集付 / 作者名）の順で示す。

④他出歌集の調査範囲は、『新編国歌大観』に拠り、巻数 - 通し番号を付した歌集名の略称と歌番号を示す。

〈例〉3-19 貫之 355 『新編国歌大観』第三巻 19 番目の『貫之集』355 番歌

⑤本書と他出との間に、本文異同（表記の異同は除く）のある場合は、▽を付して異同を句ごとに挙げ、歌集名と歌番号を示す。

⑥本書の和歌本文に見セ消チ・傍書などの書き入れがあった場合は、〔本文注記〕の項目を設け、説明を加える。なお、見セ消チがある場合、和歌本文は、見セ消チ後の本文を掲げる。

【翻字】

（1：い 1）いつはりと おもひなからも 待よひの ふくるはつらき 山のはの月
1-16 続後拾 810、6-31 題林愚 6647

（2：い 2）いつわりと おもひなからも 君とへは たかまことより うれしかりけり
未詳

（3：い 3）いつまてか 涙くもらて 月は見し 秋まちえても あきそ恋しき（新古今 / 慈円）
1-8 新古今 379、3-131 拾玉 3706、4-32 正治後 1033、5-277 定十体 243、5-278 自讃歌 31、6-31 題林愚 3868、10-123 新三撰 161、▽［秋ぞかなしき］6-27 六華集 762

（4：い 4）いつはりの なき世なりせは いかはかり 人のことの葉 うれしからまし（古今）
1-1 古今 712、2-4 古六帖 2140、2-6 和漢朗 478、5-294 奥儀 16、5-302 歌色葉 5、5-311 八雲 7、5-320 竹園抄 27、5-320 竹園抄 65、5-321 代集 12、5-328 三五記 255、5-332 悦目抄 21、5-333 和歌無 44、10-177 定家八 1248、10-200 和歌密 22、10-201 和歌灌 7

（5：い 5）いつくにか おもひさむると 見し人の 心ならては うきところなし
未詳

（6：い 6）今こむと 契りし事は 夢なから 見し夜ににたる あり明のつき（新古今 / 通具）
1-8 新古今 1276、5-273 続歌仙 8、5-278 自讃歌 59、10-123 新三撰 189、5-197 千五百 2523

（7：い 7）いささらは 涙くらへん ほとゝきす 我もうき世に ねをのみそなく（建礼門院）
5-361 平家覚 107、▽［我も尽きせぬ］［憂きねをぞなく］5-362 平家延 242

（8：い 8）いたつらに ねて明せとも もろとも

に 君かこぬ夜の 月は見さりき（新古今 / 源道済）
〔本文注記〕第二句「て」と「明」との間に小字「は」あり。▽［ねてはあかせど］1-8 新古今 1516、7-27 道済 15

（9：い 9）いかはかり うれしからまし もろともに 恋らるゝ身も くるしかりせは（新古今 / 鳥羽院）
1-8 新古今 1221、10-176 言葉 29

（10：い 10）いかゝ吹 身にしむ色の かわるかな たのむる暮の 松かせの聲（新古今 / 高倉）
1-8 新古今 1201、5-235 新時代 18、10-123 新三撰 203、10-177 定家八 1038

（11：い 11）命にも まさりてをしく あるものは 見はてぬ夢の さむるなりけり（古今 / 忠峯）
1-1 古今 609、2-4 古六帖 2059、3-13 忠岑 41、7-6 忠岑 28、10-177 定家八 1231

（12：い 12）いその神 ふるき都の ほとゝきす 聲はかりこそ むかしなりけれ（古今 / そせい）
1-1 古今 144、2-3 新撰和 131、2-4 古六帖 4438、3-9 素性 19、5-274 秀歌大 38、5-299 袖中抄 539、5-301 古来風 240、5-329 桐火桶 66、10-180 五代枕 1790、10-181 歌枕名 2611

（13：い 13）いつわりの つらきゆふへを かさねても こゝろよはくそ 人は恋しき
1-14 玉葉 1464

（14：い 14）命あらは あふ夜もあらん 世の中に なと鹿はかり おもふこゝろそ
▽［などしぬばかり］1-6 詞花 195、2-9 後葉 360、7-16 惟成弁 32、▽［よのなかを］［などしぬばかり］5-44 寛和二 40

（15：い 15）いつくにも 心とまらは すみかえよ なからへはまた もとのふるさと
未詳

（16：い 16）いきて世も あすまて人は つらからし このゆふ暮を とわはとへかし（新古今 / 式子内親王）
5-223 時代不 168、5-277 定十体 2、5-328 三五記 241、10-123 新三撰 79、10-200 和歌密 8、▽［あすまで人も］1-8 新古今 1329、▽［あすまで人の］5-278 自讃歌 19

（17：い 17）いかにせむ おもひを人に そめなから 色に出しと しのふこゝろを（千載 / 輔仁親王）
1-7 千載 646、2-12 月詣 338、10-177 定家八 881、▽［心を人に］［しのぶころかな］2-10 続詞花 481

（18：い 18）いつもきく 物とや人の おもふらん こぬゆふ暮の 松かせの聲（新古今 / 後京極）
5-178 後京極 138、5-277 定十体 89、5-278 自讃歌 24、5-329 桐火桶 190、10-123 新三撰 89、10-177 定家八 1275、▽［秋風の声］1-8 新古今 1310、3-130 月清 377、5-175 六百番 933、6-31 題林愚 7472

（19：い 19）いにしへの 秋の空まて すみた川 月に事とふ 袖の露かな
4-19 俊成女 1、5-278 自讃歌 74、10-123 新三撰 220、10-211 伊勢注 223

（20：い 20）色見えて うつろふ物は 世中の 人のこゝろの 花にそありける（古今 / 小町）
1-1 古今 797、2-3 新撰和 292、2-4 古六帖 3477、3-5 小町 20、5-2 前十五 15、5-166 俊成合 35、5-223 時代不 39、5-296 和歌初 34、5-376 宝物 337、5-444 無名草 78、10-124 女房合 1、10-177 定家八 1308、10-206 歌林良 94、10-212 源氏注 757、5-266 三十人 92、5-267 三十六 64

（21：い 21）今さらに 何おいつらん 竹のこのうきふししけき 世とはしらすや（同 / みつね）
1-1 古今 957、10-177 定家八 1534、10-212 源氏注 669、10-212 源氏注 844、▽［竹のねの］2-4 古六帖 4120、▽［よとはしるしる］7-5 躬恒 301

（22：い 22）いやしきも いやしからぬも 鳥へ野の 煙のいろは かはらさりけり
未詳

（23：い 23）いかはかり 枕の神の 笑らむ 契り

し事の まことならねは
〔本文注記〕「ら」と「む」との間に一字分空白あり。
5-251 秘蔵抄 131

（24：い 24）出るとも いるとも月を おもわねは こゝろにかゝる 山のはもなし
1-17 風雅 2076、7-135 正覚 48

（25：い 25）いつもたゝ けふはかりそと おもひつゝ きのふはすきつ あすはしられす
未詳

（26：い 26）いかにせん こぬ夜あまたの ほとゝきす またしとすれは むら雨のそら（新古今 / 家隆）
〔本文注記〕第四句「すれ」の右に「思へイ」あり。
▽［またじとおもへば］1-8 新古今 214、3-132 壬二 2252、5-217 家隆合 36、5-278 自讃歌 112、5-318 野守鏡 6、5-339 耕雲口 2、6-31 題林愚 1925、10-123 新三撰 262、10-206 歌林良 109

（27：い 27）いにしへも かくやは人の まとひけん わかまたしらぬ しのゝめのみち（源し / 源し）
5-249 物語合 21、5-250 風葉 895、5-421 源氏 32

（28：い 28）いける世の 別をしらて 契りつゝ 命を人に かきりつるかな（同 / 同）
〔本文注記〕結句「つ」の右に「イけ」あり。
▽［かぎりけるかな］5-250 風葉 529、5-421 源氏 185

（29：い 29）今こむと いひしはかりに 長月のあり明の月を まちいつるかな（古今 / そせい）
10-125 釈教合 13、▽［まちいでつるかな］1-1 古今 691、2-4 古六帖 2827、2-6 和漢朗 789、3-9 素性 24、5-52 前十五 3、5-166 俊成合 27、5-223 時代不 71、5-265 和十体 8、5-275 百人秀 22、5-276 百人首 21、5-277 定十体 31、5-291 俊頼髄 35、5-293 童蒙 870、5-294 奥儀 112、5-301 古来風 279、5-302 歌色葉 56、5-307 近代秀 89、5-308 詠歌大 95、5-332 悦目抄 40、5-335 井蛙 96、10-177 定家八 1104、2-5 金玉 44、5-264 和十種 17、5-266 三十人 50、5-267 三十六 53、5-268 深窓秘 65、5-325 和歌用 15、5-331 和歌大 7

（30：い 30）いにしゑに 猶たちかへる こゝろ哉 恋しき事に 物わすれせて（同 / つらゆき）
1-1 古今 734、2-4 古六帖 2907、3-19 貫之 591、10-177 定家八 1438、10-212 源氏注 215

（31：は 1）春毎に 花のさかりは ありなめと あひ見ん事は いのちなりけり（古今）
1-1 古今 97、10-177 定家八 123、10-212 源氏注 270、10-212 源氏注 272、▽［花のにほひは］［あひみんことぞ］［命なりける］2-4 古六帖 4050

（32：は 2）蓮葉の にこりにしまぬ こゝろもて なにかは露を 玉とあさむく（古今 / 僧正へんせう）
1-1 古今 165、2-4 古六帖 3795、3-7 遍昭 34、5-293 童蒙 559、5-311 八雲 161、10-177 定家八 250、10-212 源氏注 11、10-212 源氏注 810、10-212 源氏注 898、10-212 源氏注 1734、▽［などかは露を］5-291 俊頼髄 419、▽［濁りにそまぬ］5-302 歌色葉 240、▽［にごりにそまぬ］［などかはつゆを］2-6 和漢朗 181

（33：は 3）春くれは 袖の氷も とけにけり もりくる月の やとるはかりに（新古今 / 行尊）
1-8 新古今 1440、3-107 行尊 98、5-277 定十体 162、10-123 新三撰 172、▽［もりくる月し］5-223 時代不 272

（34：は 4）はやきせに 見るめをいせは 我袖の涙の川に うえましものを
1-1 古今 531、10-180 五代枕 1316、▽［うゑてみましを］2-4 古六帖 2084

（35：は 5）はかなくて 夢にも人を 見つる夜は あしたの床そ おきうかりけり（古今 / そせい）
▽［おきうかりける］1-1 古今 575、3-9 素性 55、10-177 定家八 1228

（36：は 6）春たては きゆる氷の 残りなく 君かこゝろは われにとけなん（古今）
1-1 古今 542

（37：は 7）春かすみ たつをみすてゝ 行かりは 花なき里に すみやならへる（同 / 伊勢）
1-1 古今 31、2-3 新撰和 35、2-4 古六帖 4374、2-6 和漢朗 326、3-15 伊勢集 303、10-212 源氏注 368

（38：は 8）春雨の ふるは涙か さくら花 ちるををしまぬ 人しなけれは（同 / くろぬし）
1-1 古今 88、2-4 古六帖 4205、5-235 新時代 31、5-291 俊頼髄 119

（39：は 9）花の色は かすみにこめて 見せす共 香をたにぬすめ 春の山風（同 / むねさた）
1-1 古今 91、2-3 新撰和 55、2-4 古六帖 380、2-8 新撰朗 375、3-7 遍昭 1、5-289 隆源口 20、5-293 童蒙 673、5-294 奥儀 120、5-294 奥儀 126、10-177 定家八 112、▽［みえずとも］5-5 寛平中 6、五巻 5-265 和十体 16、5-264 和十種 37

（40：は 10）はる来そ 人もといける 山さとは 花こそ宿の あるしなりけれ（前大納言公任）
1-3 拾遺集 1015、1-3' 拾遺抄 388、2-5 金玉 21、2-7 玄玄 52、2-8 新撰朗 114、3-80 公任 1、5-53 後十五 27、5-153 相撲立 1、5-235 新時代 133、5-270 後六々 104、5-300 六陳状 56、5-301 古来風 380、5-374 今昔 74、5-375 古本説 4、5-380 宇治 2、6-16 和漢兼 268、10-212 源氏注 1793、▽［人もとひくる］10-177 定家八 1704

（41：は 11）はらひかね さこそは露の しけからみ やとるか月の 袖のせはきに（新古今 / 雅経）
▽［しげからめ］1-8 新古今 436、4-15 明日香 896、5-184 老若合 276、5-278 自讃歌 126、5-329 桐火桶 201

（42：は 12）花をのみ をしみなれたる みよしのゝ 梢におつる あり明の月
1-16 続後拾 358、2-16 夫木 5176、5-189 撰歌合 67、5-385 撰集抄 97、6-11 雲葉集 603、6-31 題林愚 4055、10-123 新三撰 285、▽［をしみなれにし］5-278 自讃歌 104

（43：は 13）春風は 花のあたりを よきてふけ 心つからや うつろふと見ん（古今 / 興かせ）
1-1 古今 85、2-4 古六帖 381、3-10 興風 1、5-291 俊頼髄 113、5-292 綺語抄 734、5-297 万葉時 66、5-329 桐火桶 57、10-177 定家八 153、10-212 源氏注 778、10-212 源氏注 1245、10-212 源氏注 1362

（44：は 14）はる〳〵の 花はちるとも さきぬへし またあひかたき 人の世そうき
3-41 三条右 35、5-416 大和 104、6-10 秋風集 1293、▽［はるごとに］1-11 続古今 1394、1-235 新時代 63

（45：は 15）花の色は うつりにけりな いたつらに 我か身世にふる なかめせし間に（古今 / 小町）
1-1 古今 113、3-5 小町 1、5-166 俊成合 34、5-223 時代不 37、5-267 三十六 62、5-275 百人秀 13、5-276 百人首 9、5-277 定十体 44、5-306 西行談 5、5-307 近代秀 33、5-308 詠歌大 13、5-329 桐火桶 62、5-335 井蛙 501、6-27 六華集 214、10-177 定家八 122、10-178 八代秀 1、10-196 色葉和 485

（46：は 16）花よりも 人こそあたに なりにけれ いつれをさきに こひんとか見し（伊勢物語 / 業平）
1-1 古今 850、2-3 新撰和 172、2-4 古六帖 2488、5-376 宝物 120、5-415 伊勢語 188、10-177 定家八 682、▽［こひんとかせし］3-68 清少 40

（47：は 17）春の夜の 夢はかりなる 手枕に かひなくたゝん 名こそをしけれ（百人一首千載にも / 周防内侍）
1-7 千載 964、3-101 周防 7、5-235 新時代 223、5-275 百人秀 69、5-276 百人首 67、10-124 女房合 18、10-177 定家八 954

（48：は 18）春の夜の 月にむかしや おもひ出る たかつの宮に にほふ梅かえ
4-41 御五十 706、1-9 新勅撰 42、10-181 歌枕名 3715

（49：は 19）花もちり 鳥さへ雲に いりぬれは 空をあふきて おしむはる哉
▽［花もちる］4-26 堀河百 317

（50：は 20）春たつと いふはかりにや みよし野の 山もかすみて 今朝はみゆらん
1-3 拾遺集 1、1-3' 拾遺抄 1、2-4 古六帖 4、2-5 金玉 2、3-13 忠岑 164、5-8 定文合 1、5-52 前十五 7、5-166 俊成合 52、5-223 時代不 115、5-251 秘蔵抄 2、5-267 三十六 80、5-269 九品和 1、5-274 秀歌大 3、5-291 俊頼髄 98、5-294 奥儀 87、5-301 古来風 341、5-302 歌色葉 63、5-304 瑩玉集 4、5-307 近代秀 28、5-308 詠歌大 1、5-314 詠歌一 41、5-328 三五記 221、5-328 三五記 257、5-335 井蛙 101、5-388 沙石 191、7-6 忠岑 1、10-177 定家八 2、10-178 八代秀 21、10-180 五代枕 145、10-181 歌枕名 2004、10-200 和歌密 23、10-202 玉伝和 1、10-206 歌林良 53、10-210 古今注 450、10-210 古今注 610、▽［けふはみゆらむ］2-6 和漢朗 8、5-266 三十人 71、5-268 深窓秘 2

（51：は 21）春はたゝ 霞はかりの 山のはに 暁かけて 月いつるころ（拾遺愚抄 / 定家）
1-11 続古今 168、3-133 拾遺愚 1115、5-336 愚問賢 14、▽［月いづるかな］6-27 六華集 302

（52：は 22）春はみな おなし桜と なりはてゝ 雲こそなけれ みよし野の山（月清抄 / 後京極）
1-9 新勅撰 69、3-130 月清 241、5-178 後京極 20、5-183 三百六 81、10-181 歌枕名 2036、▽［春はただ］6-27 六華集 159、10-185 三百六 51、10-56 三相撲 4

（53：は 23）春をへて 花をあはれと おもひしる 心の宿は みよしのの山（拾玉抄 / 慈圓）
3-131 拾玉 1320

（54：は 24）花さかり 霞の衣も ほころびて 峯しろたえの あまのかく山（拾遺愚抄 / 定家）
2-16 夫木 1136、3-133 拾遺愚 2158、▽［天のかご山］5-259 三体和 19、▽［ほしそめて］10-181 歌枕名 2918

（55：は 25）はかなしや 荒たる宿の うたゝねに いまつまかよふ 手枕の露（月清抄 / 後京極）
2-16 夫木 5074、3-130 月清 327、5-175 六百番 333、6-31 題林愚 4330

（56：は 26）春雨に 玉ぬく柳 かせふけは 一かたならす 露そこほるゝ（長秋抄 / 俊成）
3-129 長秋 109

（57：は 27）はつ草の なとめつらしき 言の葉そ うらなく物を をもひたるかな（伊勢物語 / 業平いもと）
▽［思ひけるかな］5-415 伊勢語 91、10-210 古今注 163、▽［ことのはは］［おもひけるかな］10-212 源氏注 355、▽［うらなく人を］［おもひけるかな］1-18 新千載 1017

（58：は 28）春霞 かすみこめたる 山さとの はれぬこゝろを 人しるらめや（拾玉抄 / 慈圓）
3-131 拾玉 106

（59：は 29）はかなしや けふも暮ぬと いひへて 夜半のけふりと いつかのほらん（同 / 同）
3-131 拾玉 296

（60：は 30）はし鷹の たつてふ事を よそに見し 老のなみこそ たちかへりけれ（拾玉抄 / 慈圓）
▽［こひてふことを］3-131 拾玉 872

（61：は 31）庭のおもに まかせし水も 岩こえて ほかにせきやる 五月雨の比（壬二抄 / 家隆）
3-132 壬二 2278、▽［よそにせきやる］1-20 新後拾 230

（62：は 32）庭のおもは 柳桜を こきせん 春のにしきの かすならすとも（拾遺愚抄 / 定家）
（本文注記）第三句「き」と「せ」との間に挿入記号、右に小字「ま」あり。
3-133 拾遺愚 1410、4-34 洞院百 130

（63：は 33）にしきゝは たてなからこそ くちにけれ けふのほそ布 袖あはしとや
1-4 後拾遺 651、2-16 夫木 15665、5-291 俊頼髄 226、5-292 綺語抄 352、5-299 袖中抄 910、6-27 六華集 1429、10-180 五代枕 1738、10-181 歌枕名 7214、10-206 歌林良 561、10-213 六花注 175、▽［立ちながらこそ］［むねあはじとや］5-294 奥儀 405、5-302 歌色葉 177、10-196 色葉和 651、▽［たててぞともに］［くちにける］［むねあはじとや］3-85 能因 127

（64：は 34）西へゆく しるへと思ふ 月かけの 空たのめこそ かひなかりけれ
〔本文注記〕第四句「空たのめこそ」は「空たのめなるこそ」で「なる」に見セ消チあり。
1-8 新古今 1975、5-386 西行文 149、▽［しるべとたのむ］3-125 山家 854

（65：は 35）にこりなき 亀井の水を 結ひあけて 心のちりを すすきつるかな（同 / 上東門院）
〔本文注記〕第四句「心のちりを」は「心のそこを」で「そこ」に見セ消チ、右に「ちり」あり。
1-5' 金葉三 525、1-8 新古今 1926、2-10 続詞花 468、5-354 栄花 345、10-181 歌枕名 3670、▽ 2-7 玄玄 145［こころのうちを］

（66：は 36）にしの海 たつしら波の うへにして なにすくすらん かりのこの世を（新古今 / 清水の御哥）
1-8 新古今 1864、5-277 定十体 92、10-181 歌枕名 9066、▽［うへに居て］5-362 平家延 152

（67：は 37）庭におふる 夕かけ草の 下露や 暮をまつまの 涙なるらん（新古今 / 道経）
〔本文注記〕第三句「下」の右に「しらイ」あり。
1-8 新古今 1190、▽［ゆふつゆや］5-148 摂政合 16

（68：は 38）庭にたゝ かひやかけふり たちそひて 朝霧ふかし 小山田のはら
▽［夜はにたく］1-9 新勅撰 276、▽［よはにたく］［かびやのけぶり］3-131 拾玉 3014、5-177 慈鎮合 137、▽［夜もすがら］［たてそへて］10-206 歌林良 546

（69：は 39）庭の雪に 我あとつけて 出つるを とわれにけりと 人やみるらん（新古今 / 慈圓）
1-8 新古今 679、3-131 拾玉 259、5-177 慈鎮合 141、5-277 定十体 180、5-328 三五記 140

（70：は 40）にほの海や 浦つたひゆく 霧のまに たえ〳〵はるゝ 在明の月
5-186 新宮合 44

（71：に 1）にこり江の すまん事こそ かたからめ いかてほのかに かけを見せまし（新古今）
1-8 新古今 1053、▽［影をだにみむ］3-15 伊勢集 354

（72：に 2）庭のおもは 月もらぬまて なりにけり 梢に夏の かけしけりつゝ（同 / 白川院）
1-8 新古今 249、5-223 時代不 188、5-248 和一字 813、7-35 匡房 31、▽［日かずつもりて］3-100 江帥 76、5-248 和一字 560

（73：に 3）庭のおもに しけるよもきに 事よせて こゝろのまゝに をけるしら露（同 / 基俊）
▽［おける露かな］1-8 新古今 467、3-108 基俊 36、3-108 基 俊 203、5-272 中 古 六 135、6-31 題林愚 3262

（74：に 4）にほてるや 浪路はるかに 霧とめてやとりかねたる あり明の月
▽［霧こめて］5-186 新宮合 27

（75：に 5）庭のおもは またかはかぬに 夕立の空さりけなく すめる月かな（新古今 / 頼政）
〔本文注記〕第四句「空さりけなく」は「跡さりけなく」で「跡」に見セ消チ、右に「空」あり。
1-8 新 古 今 267、3-117 頼 政 167、5-388 沙 石 155、6-27 六華集 521、6-31 題林愚 2659、▽［住める月影］10-185 三百六 180

（76：に 6）匂ふより 春は暮行 やまふきの 花こそはなの 中につらけれ（拾遺愚抄 / 定家）
1-11 続古今 167、3-133 拾遺愚 1413、4-34 洞院百 228、6-10 秋風集 116、6-31 題林愚 1407

（77：に 7）にほひくる 花たち花の 袖の香に 涙露けき うたゝねの夢（長秋抄 / 俊成）
1-11 続 古 今 249、4-41 御 五 十 265、5-177 慈鎮合 72、5-183 三百六 208、6-11 雲葉集 334、10-57 御室撰 30

（78：に 8）庭のおもに 植をく秋の 色よりも 月にそ宿の こゝろ見えける（拾遺愚抄 / 定家）
3-133 拾遺愚 666

（79：に 9）になひもつ さうきのいれこ まちあした 世を行みちの ものとこそ見れ
3-131 拾玉 2396、▽［よわたるみちを］［あはれとぞみる］2-16 夫木 9290、2-16 夫木 17245、▽［世渡るみちを］［見るぞ悲しき］5-345 心

敬私 166、▽［さうけのいれこ］［世わたる道を］［哀とぞみる］10-204 了俊日 45

（80：に 10）西をおもふ 心にそへて ひくたまの ひとりあらわす 秋の夜の月（拾遺愚抄 / 定家）
▽［涙にそへて］［ひくたまに］［光あらはす］3-133 拾遺愚 2972

（81：ほ 1）程もなき 露の世にたに すみわびぬ 消なんのちの 身をいかにせん（拾玉抄 / 慈圓）
3-131 拾玉 76

（82：ほ 2）ほの〳〵と あかしの浦の あさ霧に 嶋かくれゆく ふねをしそおもふ（古今 / 人丸）
1-1 古今 409、2-3 新撰和 341、2-4 古六帖 1818、2-5 金玉 47、2-6 和漢朗 647、3-1 人丸 217、5-52 前十五 29、5-251 秘蔵抄 1、5-266 三十人 7、5-267 三十六 6、5-268 深窓秘 75、5-269 九品和 2、5-277 定十体 142、5-291 俊頼髄 99、5-294 奥儀 88、5-297 万葉時 33、5-298 人麻勘 44、5-299 袖中抄 521、5-301 古来風 269、5-303 無名抄 46、5-306 西行談 39、5-314 詠歌一 42、5-320 竹園抄 16、5-328 三五記 79、5-328 三五記 222、5-335 井蛙 100、5-374 今昔 128、5-384 著聞 123、10-177 定家八 802、10-180 五代枕 1034、10-181 歌枕名 7940、10-201 和歌灌 10、10-205 冷口伝 10、10-212 源氏注 680

（83：ほ 3）郭公 なきつるかたを なかむれは たゝ ありあけの 月そ残れる
1-7 千載 161、3-122 林下 71、5-165 治承合 22、5-223 時代不 236、5-271 歌仙落 4、5-275 百人秀 86、5-276 百人首 81、6-27 六華集 353、6-31 題林愚 2102、10-177 定家八 242、10-185 三百六 116

（84：ほ 4）程もなく たれもをくれぬ 世なれとも とまるは行を あはれとそ見る
▽［かなしとぞ見る］1-2 後撰 1419、10-177 定家八 693、▽［うへもなく］［みなれども］［あはれとやみし］3-15 伊勢集 285

（85：ほ 5）ほとゝきす をちかへりなけ うなひこか うちたれかみの 五月雨の比
5-299 袖中抄 471、7-5 躬恒 164、10-196 色葉和 553、10-210 古今注 509、10-212 源氏注 188、▽［さみだれのこゑ］5-8 定文合 10、▽［さみだれのそら］1-3 拾遺集 116、5-5 寛平中 10、5-293 童蒙 737、▽［をちかへりなき］［うなゐこの］［さみだれのそら］5-292 綺語抄 319、▽［今きなけ］［山時鳥］［さみだれのそら］10-210 古今注 665、▽［死での山］［こえてや来つる］10-210 古今注 465、▽［しでの山］［今や越ゆらん］10-210 古今注 40

（86：ほ 6）時鳥 はなたち花の 宿かれて 空にや草の まくらゆふらん
1-9 新勅撰 157、3-99 康資母 36

（87：ほ 7）ほの〳〵と 在明の月の 月かけに 紅葉ふきおろす 山おろしの風（新古今 / 信明）
1-8 新古今 591、2-6 和漢朗 402、3-25 信明 18、5-166 俊成合 71、5-223 時代不 183、5-268 深窓秘 50、5-291 俊頼髄 51、5-302 歌色葉 9、5-307 近代秀 49、5-308 詠歌大 54、5-314 詠歌一 50、5-326 愚見抄 10、5-328 三五記 230、5-336 愚問賢 38、5-345 心敬私 160、6-27 六華集 990、10-177 定家八 486、10-206 歌林良 5、▽［ほがらかと］10-185 三百六 306

（88：ほ 8）時鳥 なくやさ月の みしか夜も ひとりしぬれは あかしかねつも
1-3 拾遺集 125、1-3' 拾遺抄 80、2-4 古六帖 2699、2-6 和漢朗 154、3-1 人丸 173、3-2 赤人 260、5-264 和十種 4、5-266 三十人 5、5-267 三十六 4、5-298 人麻勘 38、5-298 人麻勘 42、5-300 六陳状 96、10-177 定家八 219、▽［あかしかねつつ］5-332 悦目抄 22、▽［きなくさつきの］2-1 万葉 1985、▽［ひとりねたれば］［あかしかねつつ］5-332 悦目抄 5

（89：ほ 9）ほとゝきす はなたち花の 香をとめて なくはむかしの 人やこひしき（新古今）
1-8 新古今 244、2-6 和漢朗 174、5-361 平家覚 100、5-362 平家延 222、5-363 盛衰記 253、▽［花橘に］2-3 新撰和 363、▽［啼けば昔の］5-363 盛衰記 230、▽［えだにゐて］2-4 古六帖 4422、▽［かばかりに］［なくはむかしや］［恋しかるらん］3-47 増基 101

（90：ほ 10）時鳥 そのかみ山の たびまくら ほのかたらひし 空そわすれぬ（同 / 式子内親王）
1-8 新古今 1486、4-1 式子 323、10-181 歌枕名 12、▽［そらもわすれぬ］5-277 定十体 55

（91：ほ 11）程もなく さめぬる夢の うちなれと そのよににたる 花の色かな
1-8 新古今 1584、▽［さめにし夢の］［うちなれば］［むかしににたる］2-10 続詞花 901、▽［さめにし夢の］［花のかげかな］3-80 公任 468

（92：ほ 12）ほとゝきす 聲まつほとは かた岡の 森のしつくに たちやふれまし（新古今 / 紫式部）
▽［たちやぬれまし］1-8 新古今 191、3-72 紫集 13、5-335 井蛙 356、10-181 歌枕名 161

（93：ほ 13）時鳥 なきつといつる あし引の やまとなてしこ さきにけらしも
▽［なきつついづる］1-8 新古今 196、6-6 御裳集 228、▽［鳴きつつかへる］2-16 夫木 3422、3-33 能宣 167、▽［なくなくかへる］［はなさきにけり］7-14 能宣 101

（94：ほ 14）ほとゝきす またうちとけぬ しのびねは こぬ人をまつ われのみそきく（新古今 / 白川院）
1-8 新古今 198、6-31 題林愚 2018、6-31 題林愚 9384

（95：ほ 15）郭公 なをひと聲は おもひ出よ おひその森の よわのむかしを（新古今 / 範光）
1-8 新古今 207、4-31 正治初 1529、10-181 歌枕名 6371、▽［一声は］［おもひ出でてなけ］［ほととぎす］5-361 平家覚 66

（96：ほ 16）時鳥 みやまいつなる はつ聲を いつれの宿の たれかきくらん
1-8 新古今 192、▽［いづれの里の］5-235 新時代 157、▽［しのびねは］3-93 弁乳母 58

（97：ほ 17）ほとゝきす なきているさの 山のはは 月ゆへよりも うらめしきかな（新古今 / 前太政大臣）
1-8 新古今 211、10-181 歌枕名 7816

（98：ほ 18）ほとゝきす 猶うとまれぬ こゝろかな なかなくさとの よそのゆふくれ（同 / 公経）
1-8 新古今 216、5-197 千五百 728、10-123 新三撰 104

（99：ほ 19）郭公 ふかきみねより いてにけりとやまのすそに 聲のおちつる（山家抄 / 西行）
（本文注記）第二句「ふかきみねより」は「ふるきみねより」で「る」に見セ消チ、右に「か」あり。
▽［声のおちくる］1-8 新古今 218、3-126 西行家 151、5-172 御裳濯 31、5-386 西行文 12、6-6 御裳集 212、▽［たかきみねより］［こゑのきこゆる］5-387 西行阿 10

（100：ほ 20）時鳥 なくやさ月の あやめ草 あやめもしらぬ 恋もするかな（古今）
1-1 古今 469、2-3 新撰和 212、5-291 俊頼髄 417、5-294 奥儀 491、10-177 定家八 991、10-196 色葉和 782、10-202 玉伝和 2、10-206 歌林良 67、10-212 源氏注 1119、▽［恋をするかな］5-302 歌色葉 256、5-345 心敬私 93

（101：ほ 21）時鳥 こゝろをそむる ひと聲は袂の露に のこるなりけり（月清抄 / 後京極）
3-130 月清 252

（102：ほ 22）ほとゝきす しのび〳〵に 来なく也 卯の花月夜 ほのみゆるころ（同 / 同）
3-130 月清 722、4-31 正治初 426

（103：ほ 23）郭公 なきすてゝ行 聲の跡に 心をさそふ 松のかせかな（拾玉抄 / 慈圓）
3-131 拾玉 2983

（104：ほ 24）ほとゝきす まつ夜ふけ行 一聲にすすしくあくる しのゝめの空（同 / 同）
3-131 拾玉 3086

（105：ほ 25）時鳥 たかつのみやに くれはとりあやしきまての 聲の色かな（同 / 同）
3-131 拾玉 3290

（106：ほ 26）時鳥 しはしはまたし かへりつる春の名残の わすれもそする（長秋抄 / 俊成）

▽［かへりにし］3-129 長秋 223、6-31 題林愚 1648］

（107：ほ 27）ほとゝきす 谷のまに〳〵 おとつれて さひしかりける 峯つゝきかな（山家抄 / 西行）
5-173 宮河合 43、▽［あはれなりつる］6-6 御裳集 211

（108：ほ 28）郭公 おもふもとをし いその神 ふるきみやこの 忍ひ音の空（壬二抄 / 家隆）
4-41 御五十 562、▽［思ふとをしれ］3-132 壬二 1654

（109：ほ 29）ほとゝきす 雲路はるかに 聲すなり 月の都に さとなれや行（同 / 同）
3-132 壬二 1962、3-132 壬二 2225

（110：ほ 30）時鳥 なかなく里の あまたあれは 猶うとまれぬ おもふ物から（伊勢物語 / 業平）
1-1 古今 147、3-6 業平 19、5-292 綺語抄 434、5-292 綺語抄 603、5-293 童蒙 733、5-302 歌色葉 462、5-415 伊勢語 80、7-2 業平 89、10-177 定家八 237、3-4 猿丸 35

（111：と 1）ともすれは 人をうらむる 心かな 数ならぬ身を おもひ忘れて
未詳

（112：と 2）鳥かねの なき山里の をくも哉 君にあふ夜の すみかとやせん
未詳

（113：と 3）時のまも こゝろは空に なる物を いかにすくせし むかしなるらん（實方）
▽［いかですぐしし］1-3 拾遺集 850、10-177 定家八 1166

（114：と 4）年をへて すみこし里を 出ていなは いとゝふか草の 野とやなりなむ（伊勢物語 / 古今にも、業平）
▽［いとど深草］1-1 古今 971、3-6 業平 62、5-335 井蛙 138、5-415 伊勢語 206、7-2 業平 76、10-177 定家八 1699、10-181 歌枕名 1078

（115：と 5）鳥の音は うき物なから 此まゝに またいとふへき 暁もかな
4-22 草庵 1005

（116：と 6）年をへて 花のかゝみと なる水は ちりかゝるをや くもるといふらん（古今 / 伊勢）
1-1 古今 44、2-4 古六帖 4049、5-265 和十体 20、5-294 奥儀 124、5-329 桐火桶 47、8-34 雲玉 108、10-177 定家八 58、10-212 源氏注 731、5-264 和十種 47、▽［散りかかるをば］6-27 六華集 56

（117：と 7）としたけて 又こゆへしと おもひきや 命なりけり さ夜の中山（新古今 / 西行）
1-8 新古今 987、3-126 西行家 476、5-277 定十体 238、5-278 自讃歌 168、5-345 心敬私 48、5-386 西行文 106、5-387 西行阿 48、10-181 歌枕名 5009

（118：と 8）年もへぬ いのる契りも はつせ山 おのえのかねの よそのゆふ暮（新古今 / 定家）
265 六巻 6-27 六華集 1452、▽［いのるちぎりは］1-8 新古今 1142、3-133 拾遺愚 856、5-175 六百番 669、5-216 定家合 109、5-278 自讃歌 93、5-343 正徹語 91、10-177 定家八 931、▽［いのるしるしは］5-345 心敬私 40、6-31 題林愚 6457

（119：と 9）とけてねぬ ね覚さひしき 冬の夜に むすほをれつる 夢のみしかさ
5-249 物語合 71、5-250 風葉 407、5-421 源氏 320

（120：と 10）とまる身も きえしもおなし 露の世に 心をくらん ほとそはかなき
5-421 源氏 121

（121：と 11）鳥辺山 もえしけぶりも まがふやと あまのしほやく うらみにぞ行（源し / 源し）
5-249 物語合 375、5-421 源氏 170、5-444 無名草 10

（122：と 12）時しらぬ 山はふじのね いつとてか かのこまだらに 雪のふるらん（伊勢物語 古今にも / 業平）

1-8 新古今 1616、2-4 古六帖 687、3-6 業平 66、5-300 六陳状 139、5-374 今昔 84、5-415 伊勢語 12、7-2 業平 24、10-177 定家八 1658、10-181 歌枕名 5134

（123：と 13）年のうちに 春は来にけり ひとゝせを こぞとやいわむ ことしとやいわん（古今 / 元方）
1-1 古今 1、2-4 古六帖 1、2-6 和漢朗 3、5-5 寛平中 3、5-270 後六々 98、5-277 定十体 160、5-294 奥儀 133、5-301 古来風 215、5-328 三五記 99、5-329 桐火桶 38、5-388 沙石 9、6-31 題林愚 38、10-177 定家八 1

（124：と 14）とへばいふ とわねばうらむ ゝさしあぶみ かゝるおりにや 人はしぬらん（伊勢物語 / 業平）
5-333 和歌無 28、5-415 伊勢語 19

（125：と 15）としふとも こしのしら山 わすれずは かしらの雪を あわれとも見よ（新古今 / 右京大夫）
1-8 新古今 1912、3-111 顕輔 137、10-181 歌枕名 7427

（126：と 16）年のうちに 春たちぬとや 吉野山 霞かゝれる 峯のしら雲
1-10 続後撰 1、2-12 月詣 1、3-129 長秋 202、6-31 題林愚 40、10-181 歌枕名 2005

（127：と 17）とし毎に あふとはすれど 七夕の ぬる夜の数ぞ すくなかりける（古今 / みつね）
1-1 古今 179、2-3 新撰和 22、2-4 古六帖 148、2-6 和漢朗 220、3-12 躬恒 454、5-4 寛平后 118、5-8 定文合 12、7-5 躬恒 151、7-5 躬恒 165、10-212 源氏注 957

（128：と 18）遠くうつ きぬたの音の きこゆるは 我が涙とは 月ぞしらする
未詳

（129：と 19）ときはなる 山の岩ねに むす苔の そめぬみどりに 春雨ぞふる（月清抄 / 後京極）
1-8 新古今 66、4-31 正治初 413、▽［むすぶこけの］3-130 月清 709、▽［おふる苔の］10-181 歌枕名 1155

（130：と 20）とにかくに 花見る程の おもひかな 春の山かぜ 峯のしら雲（拾玉抄 / 慈圓）
3-131 拾玉 4771

（131：と 21）としをへて 待もをしむも 山さくら 花にこゝろを つくすなりけり（山家抄 / 西行）
1-12 続拾遺 91、3-126 西行家 614、5-173 宮河合 11、6-6 御裳集 121、3-125 山家 109

（132：と 22）時こそあれ さらてはかゝる 匂ひかは 桜もいかに 春をまちけん（拾遺愚抄 / 定家）
3-133 拾遺愚 634

（133：と 23）年をへて 四方の山辺の さくら花 ちりすてゝ行 春もうらめし
3-132 壬二 2197

（134：と 24）時しもあれ 心をすます たそかれに 名乗て過る ほとゝきすかな（拾玉抄 / 慈圓）
3-131 拾玉 1226

（135：と 25）とはてこし よもきかかとの いかならん 空さへとつる 五月雨のころ
▽［よもぎの門の］3-133 拾遺愚 528

（136：と 26）とし暮て 涙のつらゝ とけにけり こけの袖にも 春やたつらん（新古今 / 俊成）
1-8 新古今 1436、3-129 長秋 485、5-223 時代不 26、5-277 定十体 108、6-31 題林愚 5、10-177 定家八 1575

（137：と 27）年をへて 影もかはらす すむ月は うき世の中と しるやしらすや（拾玉抄 / 慈圓）
3-131 拾玉 350

（138：と 28）としをへて 月やあわれと 思ふらん なかむる人の かはり行をは（同 / 同）
3-131 拾玉 1398

（139：と 29）とにかくに うき数かくや 我ならん しちのはしかき 鴫のはねかき（同 / 同）
3-131 拾玉 3558、5-197 千五百 2584、▽［我なれや］［鴫の羽がき］［しぢのはしがき］10-206 歌林良 27

（140：と 30）年月を いかてわか身に 送りけん きのふみし人 けふはなき世に（新古今 / 西行）
5-173 宮河合 57、5-387 西行阿 19、10-177 定家八 1522、▽［昨日の人も］1-8 新古今 1750、3-125 山家 768、▽［いかで我がみも］［きのふの人も］3-126 西行家 399、▽［いかでわが身の］［きのふの人も］5-277 定十体 134、▽［いかに我が身に］［つもりけむ］5-386 西行文 21

（141：と 31）とふ人に おもひよそへて 見る月の くもるは帰る 心ちこそすれ（千載 / 仁和寺入道）
〔本文注記〕小字和歌一行書き。後の書き入れか。
1-7 千載 980、2-10 続詞花 189、7-46 出観 407、▽［みる月は］6-31 題林愚 4234

3. 解　題

歌頭が「い」「は」「に」「ほ」「と」の歌、計 141 首中、見セ消チや書き入れは 9 箇所に見られる。いずれも、他出歌集の本文に一致するものである。また。集付・作者名の記載は、正確と言ってよい。

和歌本文の表記は、たとえば「いつはり」（1：い 1）と「いつわり」（2：い 2）とが存するなど、仮名遣いを統一しようという意識は、まず見られない。

『新編国歌大観』によって他出歌集を検したところ、勅撰集歌、中でも『新古今集』（38 首）、『古今集』（25 首）の歌が多いことがわかる。その一方で、『万葉集』歌が見出せないという点には、留意しておく必要があるだろう。

また注目すべきは、六家集（秋篠月清集・長秋詠藻・山家集・拾玉集・拾遺愚草・壬二集）や『堀河百首』『新宮撰歌合』などに収載されている、その歌集（作品）にのみ唯一載っている歌である。以下、他出が『新編国歌大観』中、唯一例という歌を、歌集（作品）ごとに列挙しておこう。

1-1 古今（36：は 6）
1-14 玉葉（13：い 13）
3-129 長秋（56：は 26）
3-130 月清（101：ほ 21）
3-131 拾玉（53：は 23）（81：に 11）（58：は 28）（59：は 29）（60：は 30）（103：ほ 23）（104：ほ 24）（105：ほ 25）（130：と 20）（134：と 24）（137：と 27）（138：と 28）
3-132 壬二（109：ほ 29）（133：と 23）
3-133 拾遺愚（78：に 8）（80：に 10）（132：と 22）（135：と 25）
4-22 草庵（115：と 5）
4-26 堀河百（49：は 19）
5-186 新宮合（70：は 40）（74：に 4）
5-251 秘蔵抄（23：い 23）
5-361 平家覚［5-362 平家延］（7：い 7）
5-421 源氏（120：と 10）

前述の六家集の中でも、慈円の『拾玉集』歌の例が最も多い。

さらに、『秘蔵抄』歌 1 首については、注意を要しよう。永享十年（1438）までに成立したかとされ、元禄十五年（1702）刊の『和歌古語深秘抄』に収められ板行された［『新編国歌大観』秘蔵抄解題（赤瀬信吾氏）］というこの歌集の歌が存するということは、本書の成立を考える上で、ひとつの指標となる可能性があろう。

また、『源氏物語』の歌も 1 例あり、いわゆる歌集ではなく、物語中の和歌が見出される点にも留意される。

なお、『平家物語』の歌も 1 首存するが、本文異同から見ると、延慶本ではなく、覚一本と一致する。常識的ではあるが、指摘しておきたい。

最後に、『新編国歌大観』の範囲内では他出が認められない歌が 8 首存することを、付け加えておく。今後も調査範囲を広げて、引き続き検討を加えたい。

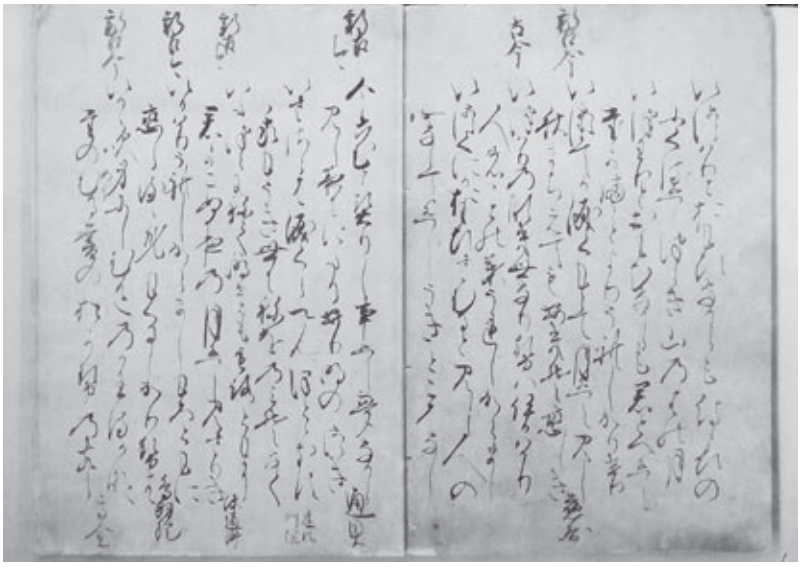
附　記

本稿は、同志社大学文化情報学研究科における 2013 年度春学期の授業「日本古典文学情報特論 1」の内容の一部であり、また、「伝統文化形成に関する総合データベースの構築と平安朝文学の伝承と受容に関する研究」（同志社大学人文科学研究所第 18 期研究会（京都と文化）第 17 研究会、

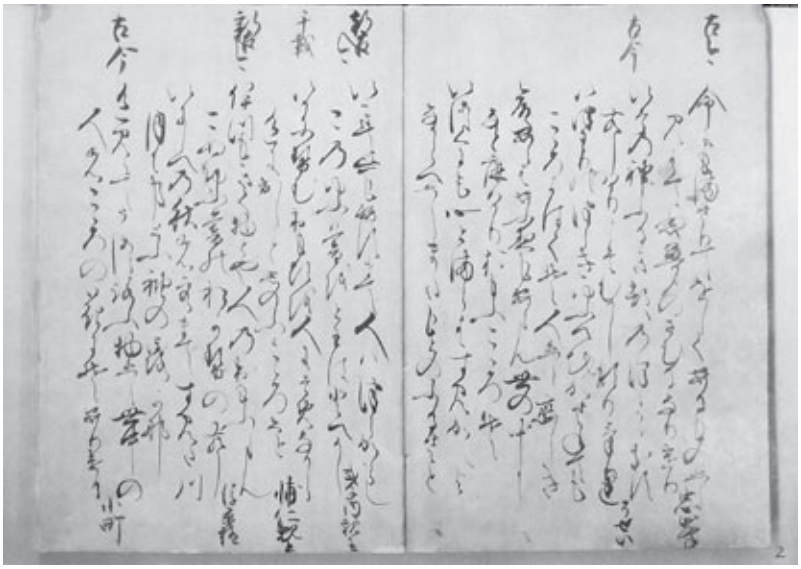
および科学研究費助成事業基盤研究（C）課題番号 25330403、いずれも平成 25 ～ 27 年度）における研究の一部である。

用例収集に際し、『新編国歌大観』CD-ROM 版 Ver.2 とともに、竹田正幸氏（九州大学大学院システム情報科学研究院）作成の文字列解析器“e-CSA Ver.2.00”を使用した。

附録　同志社大学文化情報学部蔵無名歌集 冒頭部分 影印



１丁裏・２丁表



２丁裏・３丁表